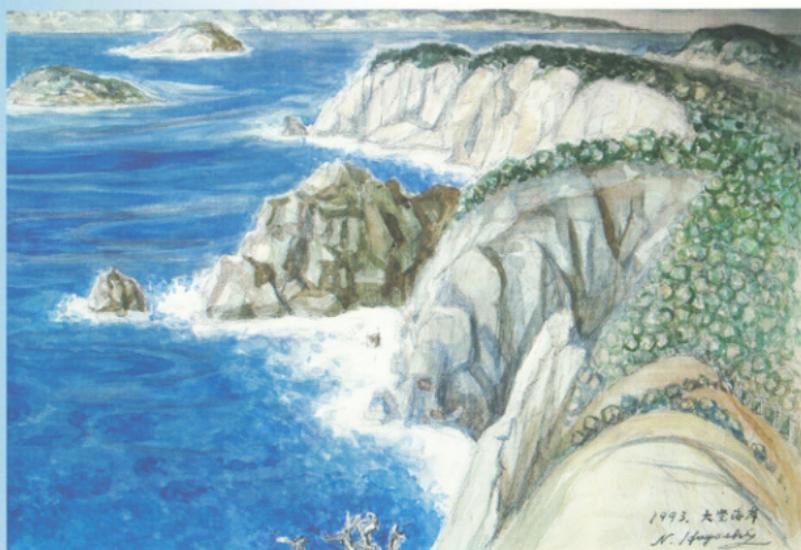


高知県幡多郡大月町

ムクリ山遺跡



2005. 3

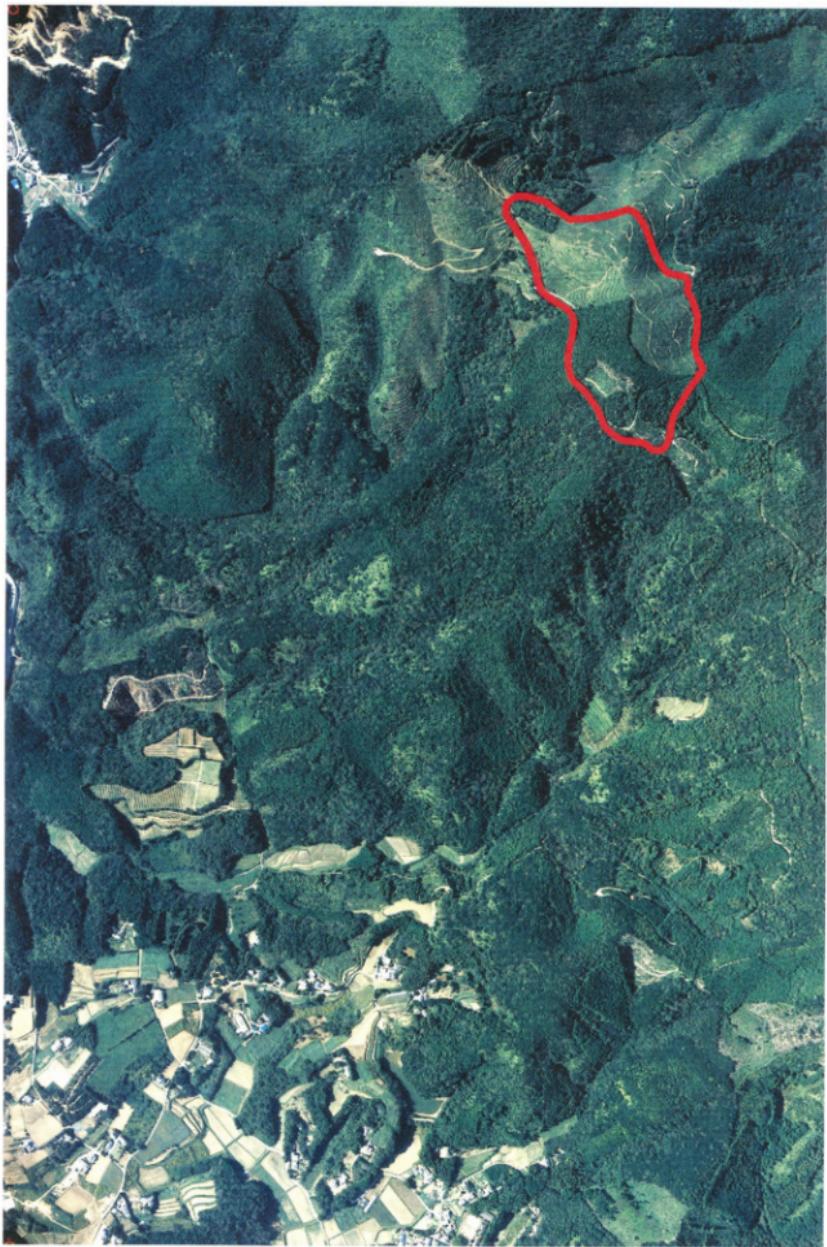
高知県幡多郡大月町教育委員会

高知県幡多郡大月町

ムクリ山遺跡

2005.3

高知県幡多郡大月町教育委員会



空撮





1



03-007702



2.3



03-007702.3.046

4



5



03-007702.2



6



7



8



11



14



15



16





備前壺

序

大月町は高知県の西南端に位置する1次産業主体の町です。南北15km、東西15.8km、面積は103.04km²土地の大部分は森林で覆われています。

町の北部の尾根に所在するムクリ山遺跡から見渡す宿毛湾と愛媛県南部の海岸地域は絶景で、晴れた日には九州を遠望することができます。

環境問題が世界共通の課題となっている昨今、本町でも自然エネルギーの導入により風力発電の設置が計画されました。事前に調査されていた企業のデータから、ムクリ山遺跡を含む尾根がその計画地域となり、平成13年度より3ヵ年に亘り遺跡とその周辺の試掘確認調査を行いました。このほどその結果を報告書として発刊する運びとなりました。

本遺跡は昭和48年と平成4年の調査で縄文時代と弥生時代の複合遺跡であることが判明しています。今回が3度目の調査となります。遺跡地の周辺ではたくさんの土器片が確認されています。

こうした先人の残してきた豊かな環境や埋蔵文化財を引き継ぎ、伝え、そして残していくことは現代に生きる我々の責務だと考え本書が、地域の歴史資料として活用して頂ければ幸いです。

最後に調査ならびに報告書作成にあたり高知県教育委員会をはじめ多くの関係者に多大なご理解とご協力を賜りましたことに対し厚くお礼申し上げます。

2005年3月

大月町教育委員会

教育長 市原正盛

例　　言

- 1.本書は風力発電所設置工事に伴うムクリ山遺跡の発掘調査報告書である。
- 2.ムクリ山遺跡は大月町龍ヶ迫に所在する。
- 3.調査は開発企業からの受託金と国庫・県費補助金の交付を受け、高知県教育委員会文化財課の指導のもと大月町教育委員会が実施した。
- 4.調査は平成13～15年度である。
- 5.調査対象面積は約400,000m²（調査面積約462m²）である。
- 6.発掘調査は次の体制で行った。

調査担当 大月町埋蔵文化財発掘調査員 坂本由美子
事務全般 13年度 大月町教育委員会社会教育係長 内原昌弘、主任 西田賢二、乾 夏夫
15～16年度 大月町教育委員会社会教育係長 宮崎幹男、主任 乾 夏夫
- 7.本報告書の編集は大月町教育委員会が行い執筆については坂本が行った。
- 8.遺跡の略号は平成13年度「01-O M」、平成14年度「02-O M」、平成15年度「03-O M」とし、遺物等資料の保管は大月町教育委員会が行っている。
- 9.現地調査及び本報告書を作成するにあたって、下記の方々より指導ならびに貴重なご教示・ご助言を賜った。記して感謝の意を表したい。

森田尚宏 松田知彦 岛中宏一 坂木裕一 池澤俊幸（高知県教育委員会文化財課）。
前田光雄 出原恵三 久家隆芳 吉成承三（高知県埋蔵文化財センター）。川村慎也
(中村市教育委員会)。多田仁（愛媛県埋蔵文化財センター）。順不同、敬称略
- 9.発掘調査・現地実測、報告書作成において下記の方々に協力を頂いた。

(発掘調査) 百田進一 宗崎重孝 浜田功一 浜田末吉 武藤末造 森下英昭
安岡哲男 吉松徳重
(現地実測) 野町和人
(実測・トレース) 山中美代子 坂本由美子
- 10.調査にあたっては、地権者をはじめ地元住民の方々に深いご理解とご協力を頂いた。厚く感謝申し上げます。
- 11.報告書の表紙に宿毛高等学校 大月分校所有の大月町弘見在住元学校長 林 成巳先生の作品『大堂海岸』をお借りしました。厚く感謝申し上げます。

目 次

巻頭カラー

序

例言

目次《本文目次・挿図目次》

本 文 目 次

第Ⅰ章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の経過	2

第Ⅱ章 遺跡の立地及び環境

第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 調査区の設定	7
第2節 土層の堆積及び遺物出土状況	7

付 章

1. 猪垣	19
2. 備前焼の壺	20

挿 図 目 次

第1図 高知県位置図	1
第2図 大月町位置図	2
第3図 遺跡分布図	5 ~ 6
第4図 平成13年度 T r-2 セクション図	7
第5図 平成14年度 T r-7 平面図	8
第6図 平成14年度 T r-7 セクション図	9
第7図 土層柱状図	10
第8図 T r-56 平面・垂直分布図	11
第9図 調査位置図	13~14
第10図 出土土器実測図	15
第11図 出土石器実測図	16
第12図 備前焼壺実測図	20

第Ⅰ章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過

古代より人々は豊かな生活を求め、自然を道具につくりかえ知恵をしづらぎながら進化、発展し今日の生活を築き上げてきた。その代償として今、地球は温暖化、エネルギー資源の枯渇という危機に直面することになった。

近年、環境に優しい風力、太陽光発電などのエネルギーを資源として無尽蔵、且つクリーンで再生可能なエネルギーの実用化に向けた取り組みが加速している。そんな中、風力発電開発会社が、本町の北西部の尾根伝い約2kmに出力1,000kwの発電用風車12基の建設を計画した。

完成すると年間発電量は約2,600万kw時を見込み、約7,300世帯の電気をクリーンエネルギーで賄える計算となる。町としても新たな観光振興の起爆剤として大きな期待をしている。

風力発電事業の対象となった尾根の一部には県内でも数少ない「弥生系高地性集落」のムクリ山遺跡が所在している。ムクリ山遺跡は昭和48年（1973）の文部科学省研究「弥生系高地性集落址の研究」のため、岡本健児氏、廣田典夫氏による発掘調査が実施され注目を集めた。平成4年度には大月町教育委員会が主体となり、高知県立埋蔵文化財センターの協力を得、平成4年8月3日より14日まで、昭和48年度の調査と同様に尾根筋の東側傾斜地部分を中心とした調査を実施している。

今回開発予定地となった約2kmの尾根には、遺跡包蔵地以外でも関連の埋蔵文化財が遺存している可能性が考えられることから埋蔵文化財に対する理解と協力を求め、平成13年4月より開発企業、高知県教育委員会、大月町水産商工振興課と大月町教育委員会で協議を行いながら、必要に応じ調査を行い記録保存に努めることとなった。

調査については大月町教育委員会が主体となり実施することとした。



第1図 高知県位置図

第2節 調査の経過

ムクリ山遺跡とその隣接地の調査は平成13年10月1日より準備等を開始しその後3回、平成15年10月まで計4回の調査を実施した。

第1次調査は、平成13年10月15日より10月17日まで、高さ30mの風況観測装置を設置するための支線ワイヤー用アンカーを中心より18.3m四方と、風向き側9.1mのところにウィンチ用アンカーを埋めるため計5穴、面積20m²について行った。この調査は緊急を要したため原因者負担の原則に基づき企業が費用を出資し実施した。当初は9月の初旬から工事を開始する予定であったが、9月6日に西南豪雨災害にみまわれ本町も甚大な被害を受けたため10月1日からの開始となった。

第2次調査は国・県の補助金を受けて平成14年8月20日より平成15年1月16日までの間開発予定地の尾根の東側約半分に36のトレンチを設定し、面積約170m²について調査を実施した。調査地の尾根沿いには「猪囲」や人為的な「集石」が確認されたため、調査と平行して測量を行い記録に残した。

第3次調査も同様に補助金を受け平成15年5月28日より6月30日まで包蔵地を含めた残り西側の尾根に18トレンチ、約148m²について調査を実施した。包蔵地周辺では良好な状態で埋蔵文化財が残存していることを確認した。調査範囲、日数等の関係から遺跡の広がりを十分に認識できなかった。そのため協議の結果第4次調査を行う運びとなった。

第4次調査は企業負担により平成15年10月1日より10月31日まで、19トレンチを設定し、面積約124m²の調査を実施し遺跡範囲の特定に努めた。



第2図 大月町位置図

第Ⅱ章 遺跡の立地及び環境

第1節 地理的環境

大月町は高知県の西南端に位置し、南北15km、東西15.8km、面積103.04km²、人口約7,000人で三角形の地形である。東は宿毛市・土佐清水市と接し、西は豊後水道、南は太平洋に面し、海岸はリアス式で人堂海岸に象徴される雄々しくダイナミックな様相を呈している。河川は少なく、大部分を森林でおおわれた山の多い土地である。

気候は、夏は高温で雨が多く、冬は温暖で雨が少ない。町の花となっている"はまゆう"は夏の暑い時期に咲き、この時期には海上はるか"オオミズナギドリ"が群れをなし、暗闇の中バサバサと町の西南端に浮かぶ蒲葵島へ舞い戻る姿が見られる。

汐風が当たる海岸地域には町の木である"ウバメガシ"が群生する。年間を通して温暖な気候風土にめぐまれた大月町は漁業と農業の盛んな町である。

町の北部の尾根（標高260～270）に所在するムクリ山遺跡は、北に宿毛湾と遠く南宇和のリアス式海岸を望み、南は弘見地区の集落を一望することができる。遺跡周辺は鞍部になっており、風当たりが少なく、近くには湧水もある。保水力豊かなムクリ山は山頂付近でも数年前まで稲作がおこなわれていた。

地質は、四十万十帯の龍ヶ迫層に属する。地質年代は古第三紀、漸新世（約3,800万年前）、砂岩勝ちの砂岩泥岩互層を主とし、灰色ないし暗灰色である。

第2節 歴史的環境

ムクリ山遺跡より北側の眼下には龍ヶ迫遺跡が所在する。龍ヶ迫遺跡は昭和63年（1988）遺跡台帳に登録された周知の遺跡で、大月町で初めて旧石器時代の遺物が確認された遺跡である。

ムクリ山遺跡の発見者である龍ヶ迫在住の竹山源春氏が平成元年（1990）龍ヶ迫天満宮の参道でナイフ形石器を採集、平成4年8月11・12日の2日間調査を行い、珪質頁岩製のナイフ形石器や剥片類を確認している。

南側の平野部にはナシケ森遺跡が所在する。ナシケ森遺跡は、中村市在住の山口将仁氏の発見により、平成6～8年度学術調査が行われ多量の剥片と楔形石器等が出上、最下部には珪質頁岩の岩盤層を確認。西日本初の珪質頁岩による石器原産地遺跡として平成

8年10月3日記者発表が行われた。その後、遺跡内に圃場整備事業が計画されたため、国庫、県費補助金を受けて平成10・11年度と試掘確認調査を行った。調査の結果広い範囲で石器が出土し、良好に埋蔵文化財が残存していることを確認。埋蔵文化財包蔵地内の圃場整備事業計画箇所は盛土工法に転換され保存されている。

ナシケ森遺跡の東にはナシケ森II遺跡が所在する。この遺跡は、表面採取によりチャートの石鎌や黒曜石のチップ、珪質頁岩の剥片が発見されている。他にもムクリ山遺跡の周辺には小谷山遺跡、大内遺跡、コヤケシタ遺跡と旧石器時代、縄文時代の遺跡が多く点在する。

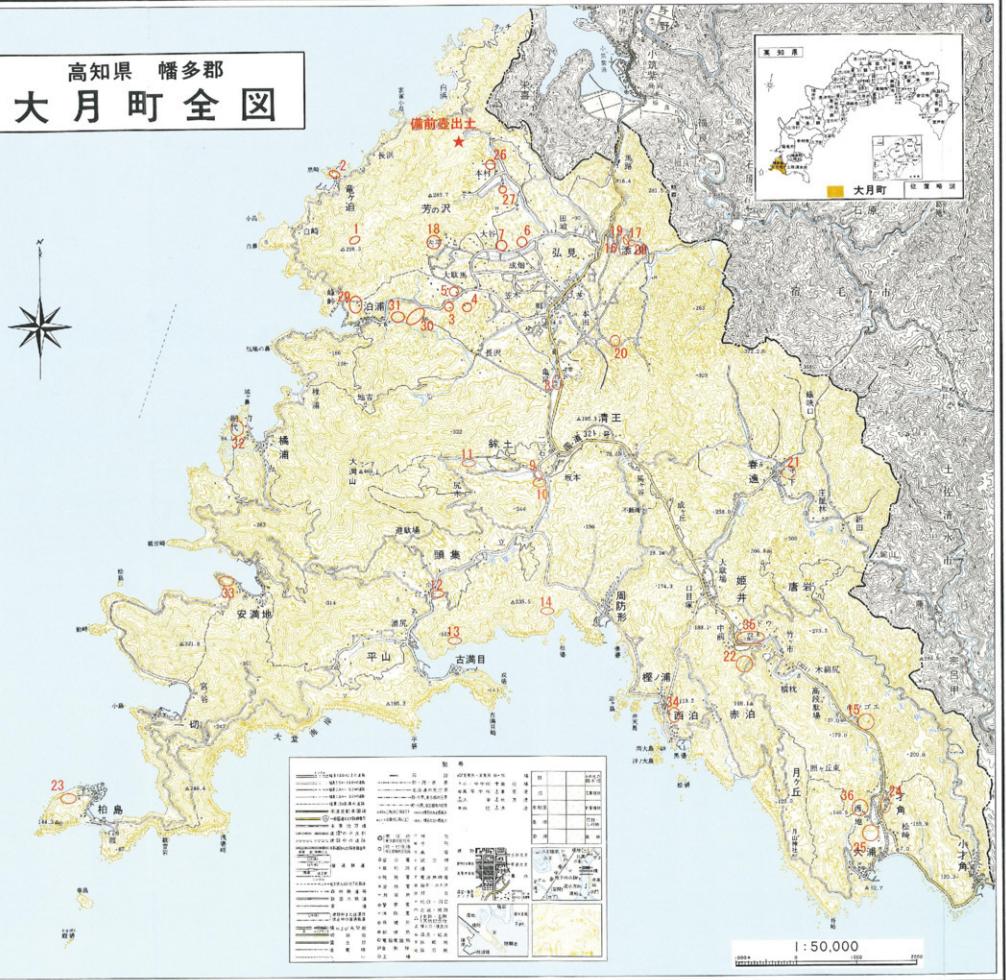
また、町内には中世の山城跡が点在し、それらは19ヶ所を数える。

古泊城跡、西泊浦城跡、泊浦城跡、橘浦城跡、安満地城跡、岩田ヶ城跡、西泊城跡、西ノ路城跡、北才角城跡、才角城跡は海岸線に位置し、正城跡、芳ノ沢城跡、内平城跡、添ノ川城跡、東添ノ川城、弘見城跡、春達城跡、愛宕城跡、姫ノ井城跡は内陸部に位置する。

この他に「古城史」等の文献に柏島地区の岩田ヶ城の南に柏島城があると記載されているが、位置は確認されてない。

築城の年代は明らかではないが、中には城主が伝えられるものもある。

高知県幡多郡
大月町全図



番号	時代	所在地	時代
1	ムクリ山遺跡	龍ヶ迫字ムクリ山	繩文・弥生
2	龍ヶ迫遺跡	龍ヶ迫字ムツガサコ	石器・繩文
3	ナシケ森遺跡	弘見字ナシケ森	旧石器・繩文
4	ナシケ森II遺跡	弘見字ナシケ森	繩文
5	小谷山遺跡	弘見字小谷山	繩文
6	コヤケシタ遺跡	芳ノ沢字コヤケシタ	繩文
7	大内遺跡	弘見字大内	旧石器
8	ヤナセ川遺跡	弘見字ヤナセ川	繩文
9	鉢土越遺跡	鉢土字鉢土越	旧石器
10	フキノ谷山遺跡	鉢土字フキノ谷山	旧石器
11	池田遺跡遺跡	鉢土字池田	旧石器
12	タテ南附遺跡	頭集字タテ南附	繩文
13	赤高山遺跡	頭集字赤高山	不明
14	尻貝遺跡	周防形字尻貝	繩文・古墳
15	カルモカ谷遺跡	才角字谷カルモカ谷	繩文
16	添ノ川城ノ西遺跡	添ノ川字城ノ西	室町
17	添ノ川仲間屋敷遺跡	添ノ川字仲間屋敷	室町
18	内平城跡	芳ノ沢字ホリ山	室町
19	添ノ川城跡	添ノ川字城山	室町
20	弘見城跡	弘見字城ノ下	室町
21	春遠城跡	春遠字ビヤノクシ	室町
22	姫ノ井城跡	姫ノ井字右御堂	室町
23	岩田ヶ城跡	柏島字岩田ヶ城	室町
24	北才角城跡	才角字ハンヤマモリ	室町
25	才角城跡	才角字城ノハナ	室町
26	正城跡	芳ノ沢字正城下	室町
27	芳ノ沢城跡	芳ノ沢字古城	室町
28	和泉(北添ノ川)城跡	添ノ川字北城山	室町
29	古泊城跡	泊浦字シロノ峯	室町
30	泊浦城跡	泊浦字シロノヲ	室町
31	西泊浦城跡	泊浦字シロノヲ	室町
32	橋浦城跡	橋浦字コシ浦岬	室町
33	安満地城跡	安満地字泊崎	室町
34	西泊城跡	西泊字上ノ丸	室町
35	愛宕城跡	姫ノ井字愛宕山	室町
36	西の路城跡	才角字西ノ路山	室町

第3図 大月町(遺跡分布図)

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 調査区の設定

調査の対象区域は、ムクリ山遺跡を含む尾根約2kmである。開発調査を円滑に進めるため事前に調査するものであるが、詳細な工事図面はできておらず尾根全体が対象である。

そのため文化財課の協力を得るなか、現地踏査を行い風力発電機が設置される可能性のある標高が高く平坦な部分を中心とし、2m×2mを基準としたトレンチを等間隔設定し調査を行うこととした。

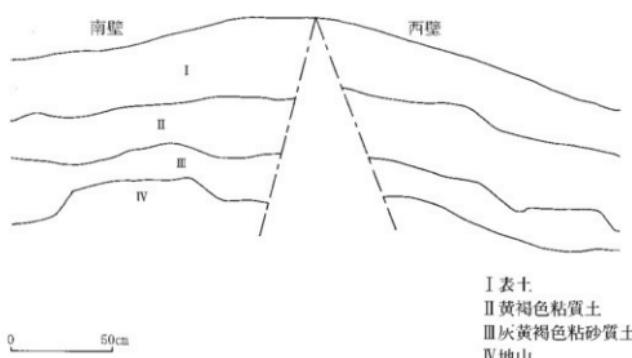
調査前に樹木伐採及び草刈を行い、表土を機械力で掘削後、機械力及び人力で遺構及び遺物の検出に努めた。トレンチは、平面図とレベルデータを記録した。併せて遺物包含層、出土遺物、出土層位の記録及び写真撮影を行った。

第2節 土層堆積及び遺物出土状況

平成13年度は、檜の植林中、標高約270mの地点に5ヵ所トレンチを設定し調査を行った。

T r-3、4、5は傾斜部で植林する際掘削されており、I層以下は地山である。表土層は20~30cmである。

T r-2は少し平地になっており唯一堆積があった。I層表土（茶褐色土、7.5YR4/3）。II層（黄褐色粘質土、10YR5/6）。III層（灰黄褐色粘砂質土、2.5Y6/2）以下地山である。



第4図 平成13年度 T r-2 セクション図

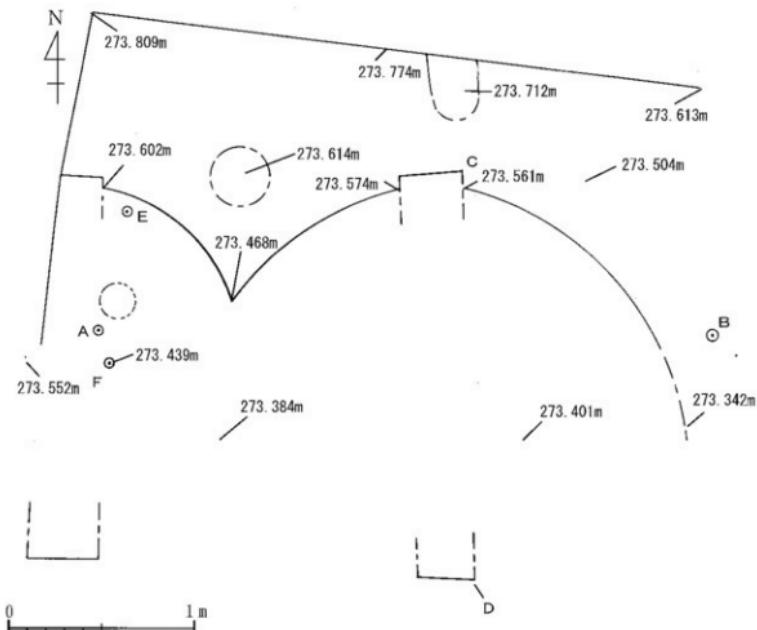
平成14年度調査地は、標高283.7mから連なる尾根部に36トレンチを設定し調査を行った。

T r-1、T r-2は林道である。T r-1はⅠ層表土(茶褐色土、7.5YR4/3)。Ⅱ層(黄褐色粘質土、2.5Y5/6)。以下地山で表土から地山まで約50cmである。T r-2はⅠ層表土、(茶褐色土、7.5YR4/3)。Ⅱ層(暗褐色粘質土、10YR3/4)。Ⅲ層攪乱(茶褐色粘質土、7.5YR4/3)。Ⅳ層(黄褐色粘砂質土、10YR5/6)。以下地山。約1mの堆積を確認した。

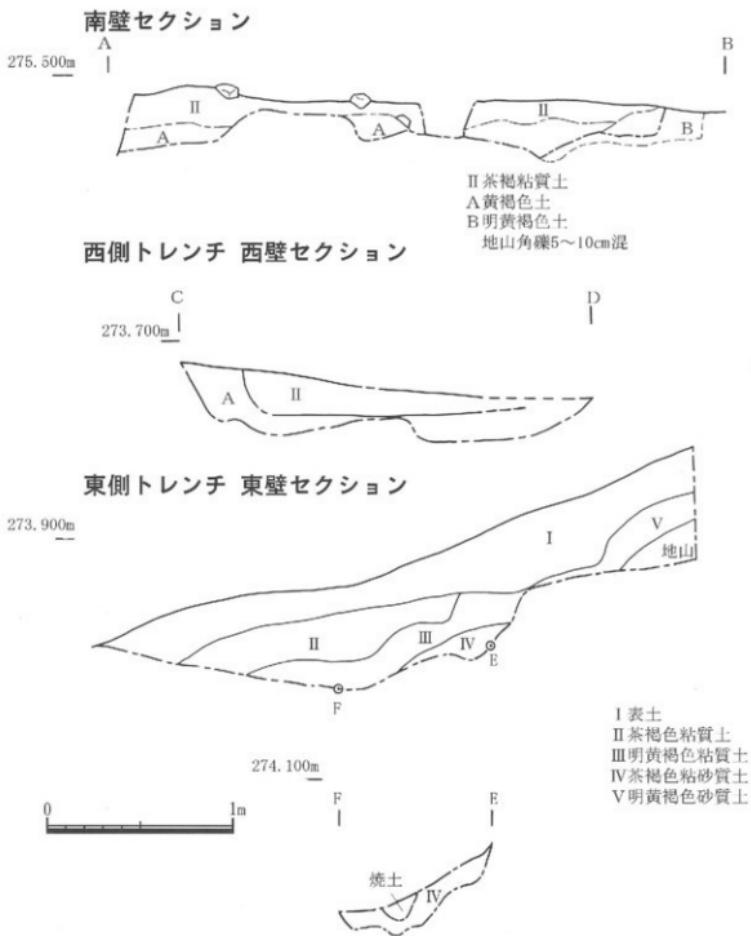
T r-3～T r-14は、標高283.7m△点の周辺で全体に堆積は薄い。

T r-3では大分県姫島産黒曜石のチップが1点出土した。そのため範囲を拡張して精査を行ったが他に遺構、遺物の出土は確認出来なかった。

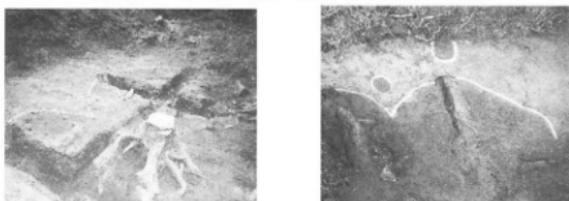
△点の北約10m下った地点T r-7でアカホヤ火山の堆積を確認した。その下層より遺構を検出したため範囲を拡張し調査を進めた。堆積は安定しており、Ⅲ層で炭化物を確認。遺構の東側、Ⅳ層では焼土を確認した。Ⅰ層表土(黒褐色土、10YR3/2)。Ⅱ層(茶褐色粘質土、10YR4/4)。Ⅲ層(明黄褐色粘質土、10YR6/8)。Ⅳ層(茶褐色粘砂質土、10YR4/4)。Ⅴ層(明黄褐色砂質土、10YR6/6)以下地山である。



第5図 平成14年度 T r-7 平面図



第6図 平成14年度 Tr-7セクション図



T r-15～T r-36の基本層序は、
 I層表土（暗褐色土、10YR3/3）。
 II層（黄褐色粘質土、2.5Y5/6）。
 III層（明黄色粘質土、2.5Y6/6）で
 以下は地山である。広い範囲で、
 II層で炭化物、III層でアカホヤ火
 山灰の混入を確認した。

平成15年調査では、遺跡周辺を
 中心に調査を行った。

T r-56・57では、表土から地山
 まで約90cm、II層の下層よりIII層
 にかけて弥生時代の所産と思われる遺物が出土した。殆んど細片ではあるが良好に埋蔵
 文化財が残存していることが確認できた。

その北側の丘陵地、T r-58～63でも堆積は良好で、II層の下層よりIII層にかけて遺
 物が出土した。

T r-58では土器片のほかに、サヌカイト製の石鎌が出上した。

T r-64・65・66のI・II層は、客土による搅乱層である。T r-66ではII層より姫島
 産黒曜石の石器が1点、T r-65ではIII層の下層より砂岩製の敲石が出土した。

T r-67・68は傾斜になっており堆積は浅く無遺物無遺構である。

T r-69・70・71は林道を造る際掘削されたのか搅乱層である。

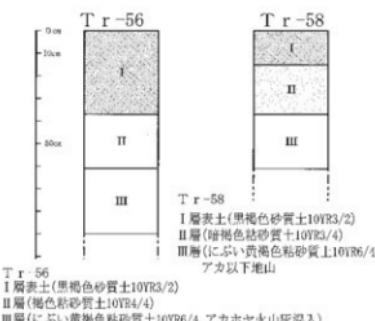
T r-72は、字宝田山の頂上標高296.3m△点の南に3.3m×2.6mを設定した。I層表土
 (旧耕作土) II層（黄褐色粘砂質土、10YR5/6）以下地山である。堆積は浅いがII層で
 アカホヤ火山灰の混入を確認した。

T r-37～44 基本層序は、I層表土（暗褐色土、10YR3/3）。II層（黒褐色粘質土上、10
 YR3/1）、III層（黄灰褐色粘砂質土、2.5Y4/1）で以下は地山である。T r-42のII層では
 姫島産黒曜石の剥片を確認した。

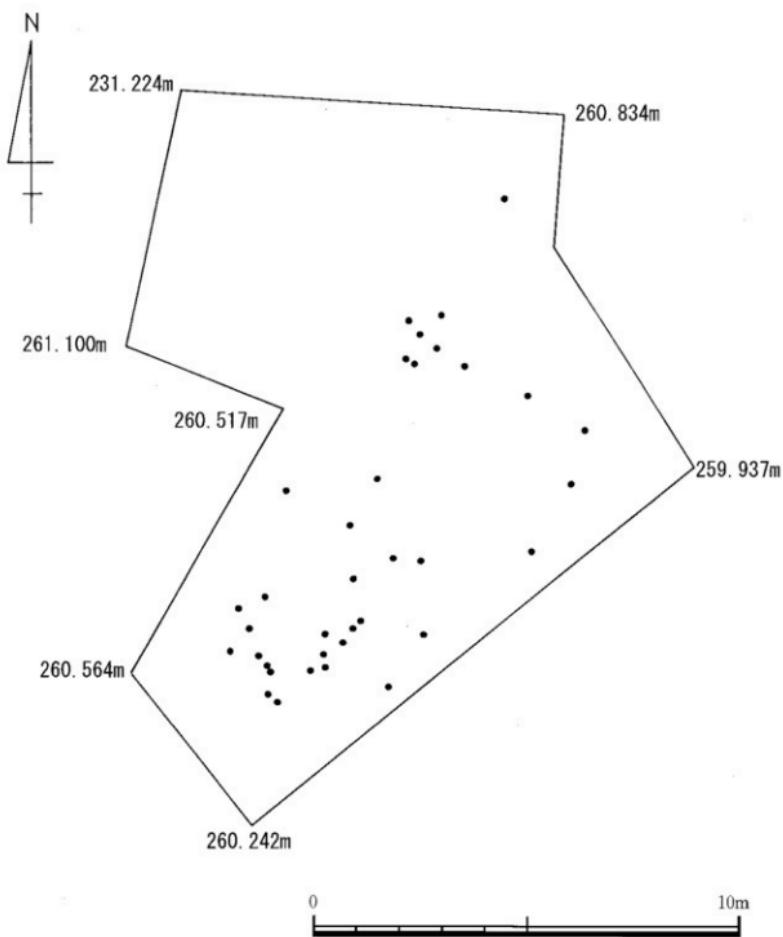
T r-45～50は楠林の中ではあるが堆積は有りT r-48のII層より焼土が出土した。

T r-51～55は標高281.1mの尾根でI層表土（暗褐色土、10YR3/3）。II層（褐色土、10
 YR4/4）、III層（明黄灰褐色粘砂質土、2.5Y6/6）で以下は地山である。

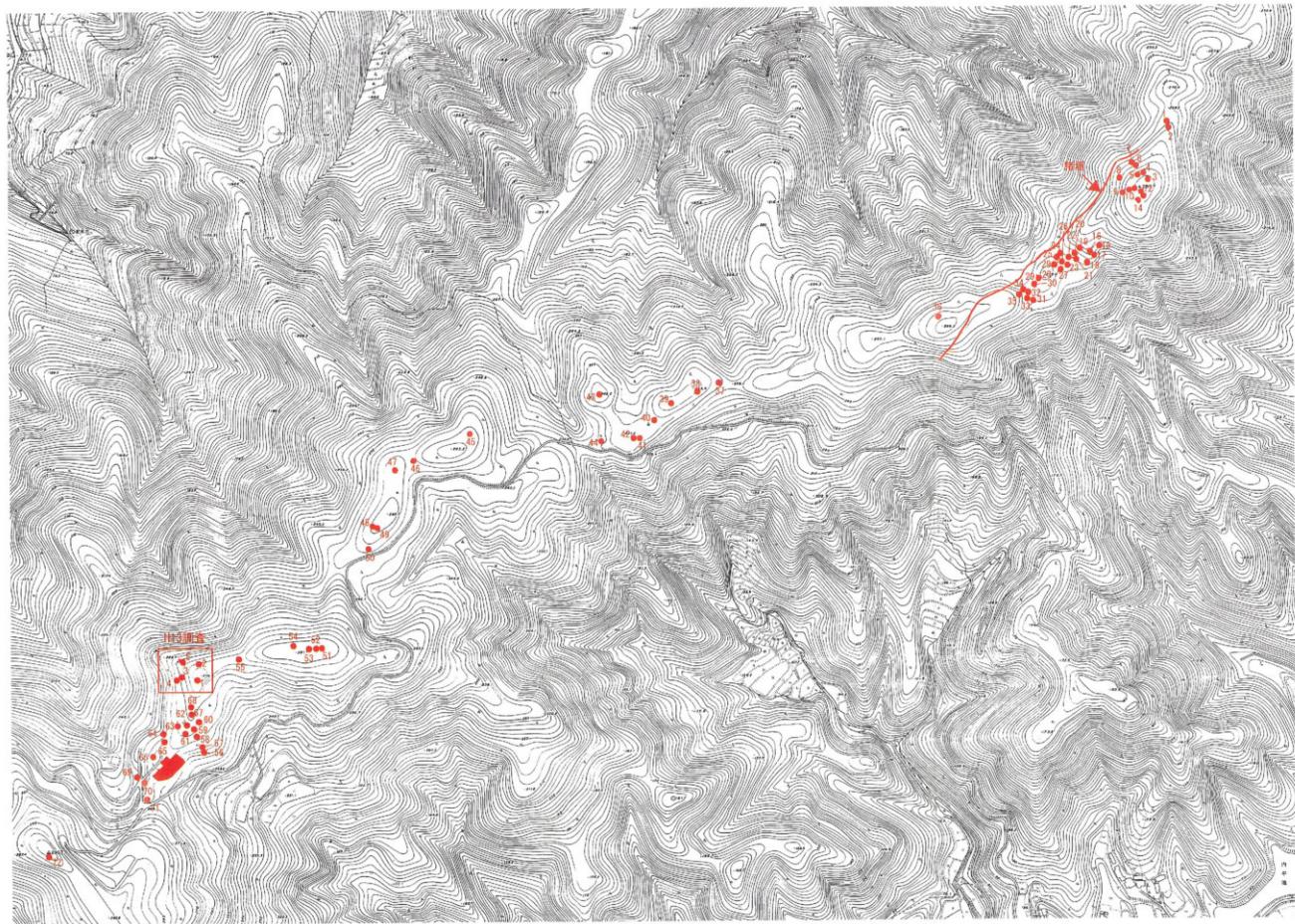
今回の調査では、遺跡内の尾根より南側で遺物が出土している。全体の出土遺物は弥
 生時代の所産と思われるが、一部の土器と石器類については縄文時代の可能性も考えられ
 る。



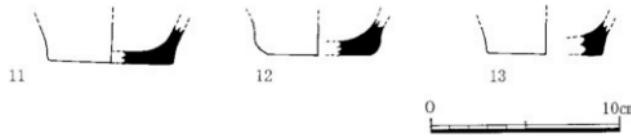
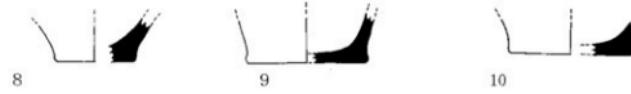
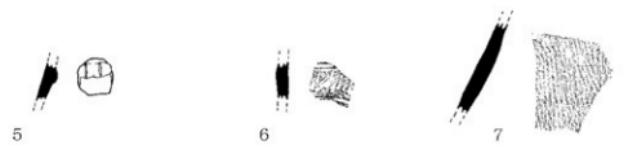
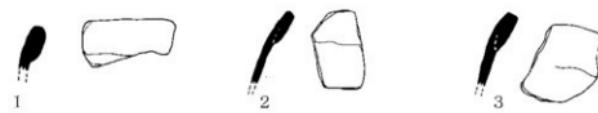
第7図 土層柱状図



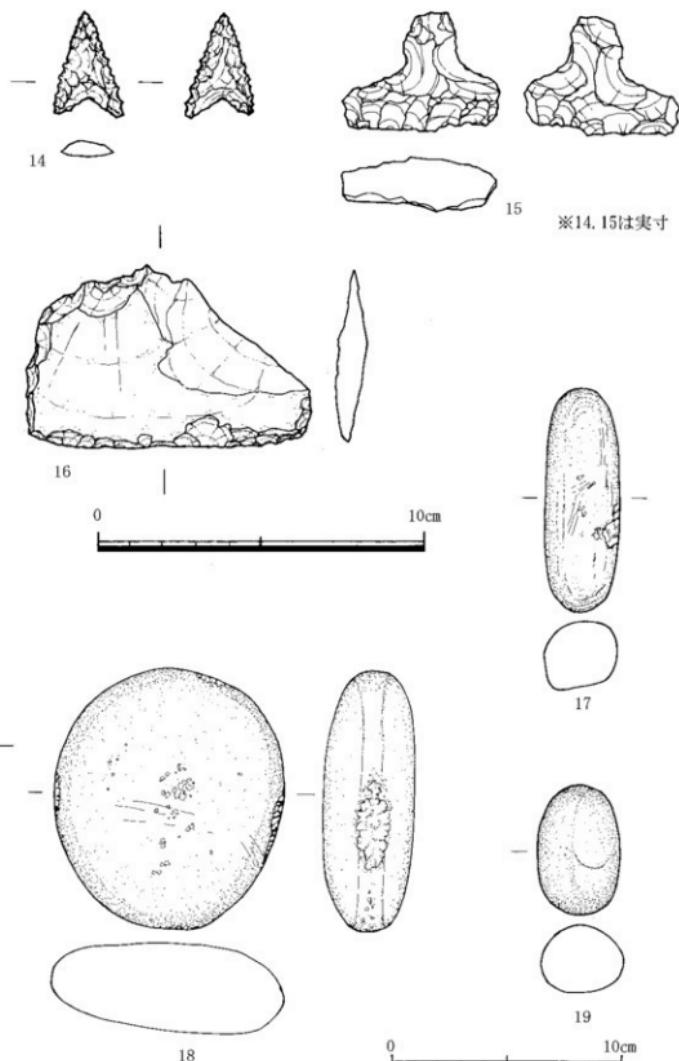
第8図 T r -56平面図・垂直分布図



第9図 調査位置図



第10図 出土土器実測図



第11図 出土石器実測図

遺物観察表

1 土器類

実測 No	種類	器種	胎土	特徴
1	弥生土器	口縁部	精良	口縁、外面1.5cm幅の粘土帶付帯、内外ナデ調整、指頭で押圧
2	弥生土器	口縁部	石英他の砂粒を多く含む	口縁、外面1.7cm幅の粘土帶付帯、内外ナデ調整
3	弥生土器	口縁部	石英、角閃石の細粒を含む	口縁、外面2cm幅の粘土帶付帯、内外ナデ調整
4	弥生土器	口縁部	砂粒含まない、炭化物附着	内外ナデ、蓋の可能性あり
5	弥生土器	口縁部	石英、細粒含む	刻み目目突帶
6	弥生土器		細粒砂を含む	外面に櫛描直線文2帯、その間に同原体による波状文を配る
7	弥生土器		石英、チャート他の粗粒石を含む	内外ハケ調整
8	弥生土器	底部	砂粒含む	内外ナデ
9	弥生土器	底部	砂粒含む	内外ナデ
10	弥生土器	底部	砂粒含まない	内外ナデ
11	弥生土器	底部	砂粒含まない	内外ナデ
12	弥生土器	底部	砂粒含む	内外ナデ
13	弥生土器	底部	砂粒含む	内外ナデ

2 石器類

実測 No	種類	器種	法量				特徴
			cm	cm	cm	g	
			全厚	全幅	全厚	重量	
14	石器	石鎌	2.15	1.4	0.3	0.6	石質 サヌカイト
15	石器		2.4	3.2	1.1	4.9	石質 姫島産黒曜石
16	石器		8.7	5.55	0.9	47.7	一部に剥離痕あり
17	石器	敲石	9.8	3.2	3	155	稜線部の一部に敲打痕あり
18	石器	敲石	11.4	10.1	4	640	側縁の一部に敲打痕あり
19	石器	砂岩円 レキ	5.7	3.7	3	85	特に使用痕は認めない

付 章

1. 猪 壈

猪垣は文字どおりイノシシが害を与えることで成立した防御の施設であり、歴史的遺跡であると共に民俗的な遺跡である。

平成14年度の試掘確認調査の際、尾根付近（標高250～280m）に、約1kmに及ぶ猪垣の所在を確認した。

地元の人の話では龍ヶ迫、芳ノ沢地区の人々の手によって積まれたものではないかと言われるが、築造年の詳細は不明である。猪垣を横切る作道には木戸が設けられ、出入りをするたびに開け閉めしていたと言う。

九州地方では、単に防御のためだけではなく、円形の竪穴を付設し、一部捕獲の歴史もあったと言われる。

ムクリ山の尾根に所在する猪垣は、全体の高さ0.5～1.8m程度で、石積の低い所では堀切と組み合わせてその効果を高めている箇所がある。所々雑木の成長により崩落している箇所もあるが、自然石を利用し、側面に平たい石を立て、その間に一抱え程の石を巧に積み上げている。正面に立つ石はその昔、人々から信奉された「鏡岩」のように見える。

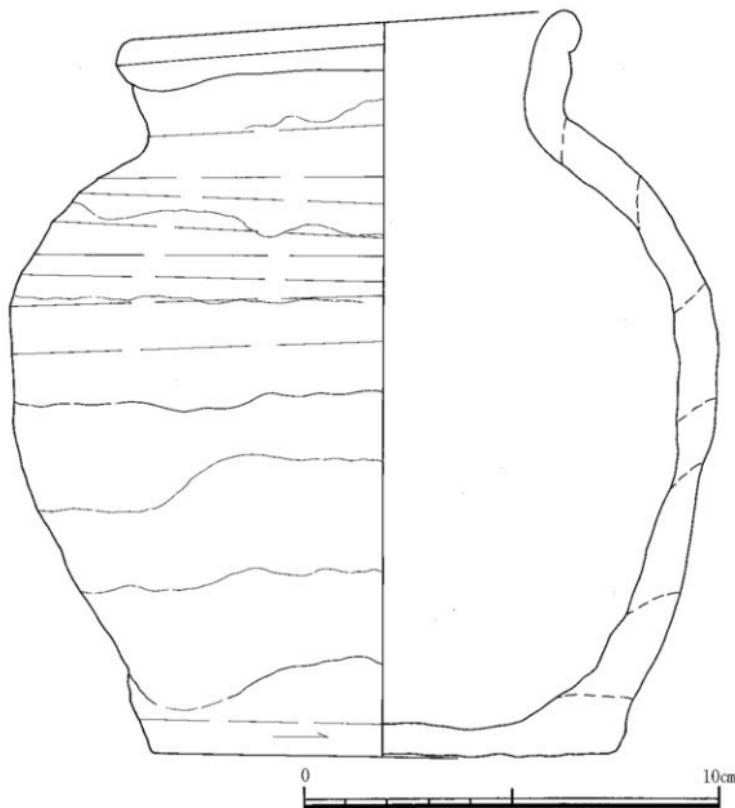
町内では他に17の猪垣が平成8年度の調査によって確認されている。

また、連なる猪垣の最高部の南側に標高235.77mの三角点がある。その隣には直径約4mの人为的につくられたであろう集石が確認された。用途、築造年等詳細は不明である。



2. 備前焼の壺

本村地区の農業用溜池より少し上った休耕田の水路より備前の壺が発見された。ほぼ完形品で、器高17.7cm、口径10.8cm、底径11.1cm、胴径は17.0cmを測る。



第12図 備前焼壺実測図

胎土は、3~5mm大長石（白角礫）混。色調は、内面黄灰（2.5Y5/1）。外面黒褐色（2.5Y3/1~3/2）である。口縁部は外側に肥厚し玉縁状を呈する。

頸部は短く立ち上がり外方にふくらみを持つ。内、外面ナデ、外底部はヘラ状の圧痕が認められる。粘土接合痕が顯著である。

口縁部の玉縁や頸部の特徴などから製作時期は備前焼編年のIV期。歴年代では、室町時代になる。

註1) 間壁忠彦・間壁茂子 1966~68·84「備前焼研究ノート」1~5
『倉敷考古研究集報』1·2·5·18号

参考文献

- 岡本健児・木村剛朗 1973『芳奈遺跡・芳奈向山遺跡』宿毛市教育委員会
伊藤 強 1999・3『バーガ森北斜面遺跡』伊野町教育委員会
伊藤 強 2001・2『バーガ森北斜面遺跡Ⅱ』伊野町教育委員会
坂本憲昭 1993『野市町木本遺跡調査報告書』野市町教育委員会
久家隆芳 2000『神ヶ谷窯跡・サンナミ遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
山崎正明 1998・3『具同中山遺跡群Ⅳ』(財)高知県埋蔵文化財センター
吉岡範満・畠中宏一 2004・3『根々崎五反地遺跡・カマガ淵遺跡・川口遺跡・神ノ西遺跡・辻ノ川遺跡・天ノ川遺跡・西原遺跡』窪川町教育委員会
前田光雄 1994・3『ムクリ山遺跡』大月町教育委員会
松田直則 1987『香山寺平山中世墓立会調査概要報告書』
小学校 『世界陶磁器全集3』日本中世
雄山閣出版 『考古学による日本歴史2』産業I
間壁忠彦・間壁葭子 1966~68・84「備前焼研究ノート」1~5
『倉敷考古研究集報』1・2・5・18号

報告書抄録

書名	ムクリ山遺跡
シリーズ名	大月町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第5集
編集機関	高知県幡多郡大月町教育委員会
所在地	高知県幡多郡大月町弘見2230番地
発行年	2005年3月31日
所収遺跡	ムクリ山遺跡
所在地	高知県幡多郡大月町龍ヶ迫字ムクリ山他
調査面積	約462m ²
調査原因	開発に伴う試掘確認調査
遺跡種別	集落跡
主な時代	縄文時代～弥生時代
主な遺構	竪穴式住居址
主な遺物	弥生土器片、姫島産黒曜石剥片、石鎌、敲石

大月町埋蔵文化財調査報告書

- 第1集 『尻貝遺跡』 1991
- 第2集 『竜ヶ迫遺跡・ムクリ山遺跡』 1994
- 第3集 『大月町文化財地図』 2000
- 第4集 『ナシケ森遺跡』 2001

大月町埋蔵文化財調査報告書 第5集

ムクリ山遺跡

編集 高知県大月町教育委員会

発行 大月町教育委員会

高知県幡多郡大月町弘見2230番地

電話 0880-73-1111 (代表)

発行日 2005年3月31日

印刷 有限会社 宿毛印刷